

子育て支援活動に関する研究 旧岐阜県山県郡高富町の支援状況について

三輪聖子，木澤光子
家政学部家政学科家政学専攻
(2003年9月11日受理)

Research on Child-Nurturing Support Activity
About the support situation of Gifu Pref. Yamagata-gun Takatomi-cho

Department of Home Economics, Faculty of Home Economics,
Gifu Women's University, 80 Taromaru, Gifu City, Japan (〒501 - 2592)

MIWA Satoko and KIZAWA Mitsuko

(Received September 11 , 2003)

1. 緒言

旧岐阜県山県郡高富町は，平成15年4月1日より三町村合併により岐阜県山県市としてスタートした。

これは「地方分権の推進を図るための関係法律の整備等に関する法律」が平成12年4月から施行され，21世紀は「地方の時代」「市町村の時代」と位置づけられ，住民に身近な総合的な行政主体である市町村の行財政基盤を強化するために市町村合併が全国で実施されようとしている。

高富町もこのような時代の流れを受け，高富町，伊自良村，美山町の三町村で平成13年8月1日に合併協議会を結成し，平成14年9月25日三町村議会で合併関連議案が可決，同年12月19日岐阜県議会で可決，県知事が三町村合併を決定し，平成15年4月1日に山県市が誕生した。

本論文は，旧高富町の子育て支援のあり方について平成12年に高富町在住の乳幼児を持つ母親を対象に実施した調査結果をまとめた

ものである。すでに行政としての高富町は存在せず，山県市として新たな子育て支援の取り組みが行われているが，旧高富町として子育て支援にどのように取り組んでいたかを明らかにしておく必要はある。

そこで，旧高富町が子育て支援に対してどのような公的活動をおこなっていたかについて明らかにすることを目的とする。また，住民の利用状況，認知度満足度や今後の課題についても明らかにしたい。

2. 旧高富町の子育て支援体制

旧高富町の保健課において平成9年に乳幼児（H5.10.1～H9.9.30出生）を持つ母親を対象にした「母子保健に関するアンケート」を実施し，その結果に基づき高富町の子育て支援の体制を整えた。

すくすく子育て教室（0，1歳児）

のびっこ子育て教室（2，3歳児）

内容は，育児にかかわる学習・講義・遊びを中央公民館でおこなう。4月に配布される学習ガイドにおいて募集する。実施日は，毎

月第1金曜日(0, 1歳児), 毎月第2金曜日(2, 3歳児)で年10回実施する。参加状況は,平成12年度ですくすく子育て教室17組, のびっこ子育て教室は21組であった。

わくわくランド

これは中央公民館において中学生ボランティアが絵本・紙芝居の読み聞かせをしてくれる。幼児から小学生が集まり,月1回おこなわれている。

コミュニティ・ママサポート事業

家庭の事情で一時的に育児ができないとき,コミュニティ・ママ(サポート会員)が保護者にかわって子どもの世話をする事業である。利用者は事前に会員登録が必要となる。利用時間は,午前8時から午後7時までで土・日も可能である。育児は利用者またはサポート会員の自宅でおこなう。利用料金は1時間当たり700~1000円である。平成12年度はサポート会員が40~50歳代の18人,利用者は13人であった。年間13人ということは1ヶ月に約1人であり,非常に利用率は低い。このような支援は,必要とされていないのか,あるいは認知度が低いのか明らかでない。

けるけるクラブ(1歳児)

ぴよぴよクラブ(2歳児)

児童館において親子で集団遊びや工作,リズム体操 絵本・紙芝居を見たり遊具で遊ぶ。実施日は第3を除く毎週火曜日(1歳児)・水曜日(2歳児)である。平成12年の参加者は両クラブ合わせて68組であった。

移動子ども相談

子育ての悩みに対して主任児童相談員が答える。毎月1回6日(休日の場合は7日)に実施する。

マタニティスクール

妊娠中の食事作りや助産婦からお産について学びながら,これから検診等でよく顔を合わせのお母さん方と仲間作りをする。対象は

妊娠5~8ヶ月の人で,保健課から手紙で知らせる。対象者の2割程度が参加している。

第1子訪問

第1子の子どもが誕生して1~3ヶ月頃に保健婦が自宅を訪問し 話を聞き体重を測る。電話をかけてから訪問する。

ミルクキッズクラブ

高富町保健福祉ふれあいセンターにおいて,離乳食・おやつ作り,病気について,親子のふれあいについての話,チャイルドシートについて,お楽しみ会などを実施し,子育てについて楽しみながら学ぶ。実施日は4~9月で10回,10~3月で10回おこなう。対象者は第1子で4~10ヶ月の子どもを持つ母親である。手紙により通知しているが,参加状況は対象者の約50%である。

わんぱく Kids クラブ

在宅の保育士に声をかけ,母親が立案した計画に基づき,おもちゃ作り,手遊び,季節の遊びをする。実施日は毎月第1・3月曜日である。対象は3・4歳くらいまでの子どもとその保護者。参加状況は毎回およそ40~50人である。

はつらつ育児電話相談

育児に関する悩みや相談を保健婦・栄養士が答える。実施日は毎週月曜日午前9時~12時までである。利用状況は1ヶ月に3~4件程度である。障害を持った子どもを持つ保護者からは定期的にあるが,他はあまりない。

乳幼児健診

子どもの心身の順調な発達を,小児科医師・歯科医師・保健婦・栄養士・歯科衛生士が検診し,子どもの育ちをサポートする。対象は3・4ヶ月,10・11ヶ月,1歳6ヶ月,3歳の年齢の子どもである。実施の案内は母子保健推進員が届けている。参加率は非常に高く約9割が検診を受けている。受診しない1割は働いて子どもを保育所などにあずけてい

る人である。

～ が旧高富町の子育て支援体制の平成12年12月現在の実態である。これらは「公民館」「社会福祉協議会」「児童館」「高富保健福祉ふれあいセンター・保健課」の協議により支援内容の重複を避けながら整えられていると思われる。保健課の職員によると、この中で最も活用率の高い支援は、乳幼児健診である。これは母子手帳にも記録欄があり、子どもの健康・発育は重要な関心事の1つで認知度も高いと考えられる。しかし、その他の支援活動の参加は、多くて5割程度、極めて少ないものもある。これらはニーズにあっていないか、情報の広報不足だと考えられる。また、ミルキー Kids クラブと わんぱく Kids クラブは第1子の子どもしか対象とされないため、第2子以上は参加したくてもできない状況にある。さらに0～4歳児まではさまざまな活動がおこなわれているが、5歳児以上が参加できるものは わくわくランドのみである。この年齢は、幼稚園等に通うので必要ないと考えられていると思われるがそれでよいのだろうか。そして実施日は基本的に平日の昼間が多く、働く母親は参加できな

いことになる。

これらの問題点を踏まえ、旧高富町の保健課の協力を得て、対象となる子どもを持つ母親の実態と意識についてアンケート調査を実施し現状を把握した。調査時期は平成12年7～8月である。

3. 住民の活用状況

(1) 子育て支援の認知状況

旧高富町がおこなっている子育て支援について「知っているか」「何で知ったか」を示したものが表1である。

「乳幼児健診」の認知度は非常に高く97.6%が知っていると答えている。しかし、その他の事業では「ミルキー Kids クラブ」61.9%「わんぱく Kids クラブ」57.1%「はつらつ育児電話相談」51.4%が5割を超えているに過ぎない。ここでは10の支援事業を対象としているが、すべて知っている人はほとんどいない状況にある。町が支援をおこなっているといっても、住民に認知されていなければ、実施していないのと同じで意味がない。

知っている人と答えた人が何で知ったかを尋ねたところ、事業によって多少の差がある

表1 子育て支援の認知状況

項 目	知っている (%)	何で知ったか (知っていると答えた人の中での%)				
		広 報	町からの案内	母子保健推進委員	保 健 婦	そ の 他
すくすく子育て教室 (0・1歳児)	31.9	67.1	20.3	1.3	5.1	6.3
のびっこ子育て教室 (2・3歳児)	27.0	68.2	21.2	0.0	3.0	7.6
わくわくランド (絵本の読み聞かせ)	40.1	43.9	15.3	0.0	0.0	40.8
コミュニティ・ママサポート事業	20.9	56.0	30.0	0.0	0.0	14.0
けろけろクラブ (児童館)	47.4	35.0	13.7	0.9	3.4	47.0
びよびよクラブ (児童館)	49.4	35.0	13.0	0.8	3.3	48.0
ミルキー Kids クラブ (4～10カ月児)	61.9	27.0	49.3	2.6	7.9	13.2
わんぱく Kids クラブ (~3・4歳児)	57.1	28.9	38.0	1.4	13.4	18.3
はつらつ育児電話相談	51.4	79.0	14.5	1.6	3.2	1.6
乳幼児検診	97.6	62.6	25.5	5.8	5.8	0.4

ものの、多くは町の「広報」をあげている。コミュニティ・ママサポート事業、ミルキー Kids クラブ、わんぱく Kids クラブは「町からの案内」をあげる人が3～5割存在しており、多くなっている。中央公民館や児童館の活動は「その他」が5割近くを占め、これは参加しているお母さんからの口コミであった。口コミの力も大きいことがわかる。しかし、認知は非常に低い。

町では「高富町子育てMAP」という内容と地図を配したパンフレットを作成、配布したり、広報に掲載するなど情報伝達をおこなっているが、実際は機能していないことが明らかになった。そして、親からの要望に「もっとしっかり知らせしてほしい」書面だけでなく直接呼びかけてほしい」など情報提供のあり方に対する意見があった。ここから、いかに情報を住民に伝達するかが大きな課題であると考えられる。

(2) 子育て支援の参加状況

子育て支援の参加状況は表2に示すとおり、非常に低い。認知状況と連動しており、「乳幼児健診」の参加率は「いつも参加している」「時々参加している」をあわせると82.2%と

非常に高い。母子保健推進委員や保健婦からも連絡がおこなわれており、子どもの健康・発達状態は親の重要関心事でもあることから参加者も多いと考えられる。次に認知度が高かった「ミルキー Kids クラブ」や「わんぱく Kids クラブ」の参加者は2割程度である。その他の事業は、8割近くが「参加したことがない」と答えている。コミュニティ・ママサポート事業を活用している人は、非常に少なく、この地域では必要のない事業内容なのであろうか。

参加者に参加する理由(表3)を聞くと「子ども同士の交流が持てるから」27.6%、「育児に関する情報が得られるから」19.2%、「子どもが楽しそうだから」12.2%、「地域での新しい友人をつくりたい」11.5%が上位にあげられる。大別すると、子どものためにと自分のためにといった2つの理由に分けることができる。参加者は何らかの目的を持って意欲的に参加していることがわかる。

そして、参加して何かプラスになったことはあるか自由記入で尋ねた。その結果次のような意見があげられた。

- ・子どもの友達ができ、子どもが喜んでいる。

表2 子育て支援の参加状況 (%)

項目	いつも参加している	時々参加している	あまり参加していない	参加したことがない	N.A.
すくすく子育て教室(0・1歳児)	2.8	2.4	2.0	84.2	8.7
のびっこ子育て教室(2・3歳児)	4.3	1.2	1.6	86.9	6.3
わくわくランド(絵本の読み聞かせ)	0.0	5.1	2.8	84.2	7.9
コミュニティ・ママサポート事業	0.0	0.4	0.8	91.3	7.5
けろけろクラブ(児童館)	6.3	6.7	3.6	75.1	8.3
びよびよクラブ(児童館)	5.9	9.1	2.0	75.9	7.1
ミルキー Kids クラブ(4～10カ月児)	15.0	7.1	2.0	66.4	9.5
わんぱく Kids クラブ(～3・4歳児)	11.1	9.1	6.3	68.4	5.1
はつらつ育児電話相談	0.4	2.0	2.8	86.2	8.3
乳幼児検診	77.5	4.7	1.2	11.1	5.5

- ・自分の友達ができた。
 - ・ストレス解消になり、気分転換ができた。
 - ・子どもの成長・発達にかかわることや子育てについて相談にのってもらえて心配がいなくなった。
 - ・悩みなどや意見交換ができ参考になった。
- これらは参加理由の目的が達せられた結果、これをプラス面としてあげていることがわかる。

次に参加しない理由(表4)を見ると、最も多いものは「知らなかった」39.9%である。認知状況からもわかるように知らないことが参加できない大きな要因になっていることが明確になった。2位は「仕事を持っているので参加できない」18.2%である。ここでの事業は、すべて平日の昼間に実施されており、働くお母さんにとって参加するのは不可能である。要望には「土・日曜日におこなってほしい」という意見が非常に多くあげられた。調査対象者の33.3%が、パートを含む何らかの仕事をもち母親であったため、このような結果が表れたと考えられる。

また、一人では参加しにくいことや興味がない、必要性を感じないなどの理由もあげられている。

(3) 子育て支援に対する要望

最も多かった要望は、「近くに自由に遊べる公園や広場が欲しい」というものであった。「雨でも遊べる施設が欲しい」幼稚園・保育

所の充実」といった施設の増設や充実を望む声は大きいことがわかる。「近くに」というのも1つのポイントであると考えられる。今後は町村合併により山県市として、旧高富町よりも広範な地域をカバーしていかなければならないことを考えると、これらの要望を充実させることは非常に厳しいと思われる。しかし市としてきめ細かな対応を希望したい。

また、すでに述べたが「わかりやすく知らせて欲しい」「土・日に実施して欲しい」という要望も多くあった。「わんぱく Kids の人数が多すぎてまとまりがつかない、年齢別にして欲しい」「2人目でもミルクキーに参加できるようにして欲しい」など支援内容のあり方に対する要望もみられ、これらは計画段階から問題と思われるところであり、改善は可能であろう。方法の問題なので対応の仕方はいろいろあると考えられる。情報提供として「子育て広報」といったものがあるとよいという意見もあった。

(4) 改善点

ではどのように改善すれば参加しやすくなるかという問いに対しての自由記述には次のような意見がみられた。要望と重複するが、「広報・手紙・ケーブルテレビなどで知らせて欲しい」「書面でなく直接呼びかける」「活動内容を具体的に知らせる」といった情報提供に関する改善点が多い。活動方法や内容については「土・日や時間の枠を広げる」「小規模

表3 参加理由 (%)

子ども同士の交流がもてるから	27.6
育児に関する情報が得られるから	19.2
子どもが楽しそうだから	12.2
地域での新しい友人をつくりたい	11.5
母親同士の交流がもてるから	10.3
何となく	3.8
その他	15.4

表4 参加しない理由 (%)

知らなかった	39.9
仕事を持っているので参加できない	18.2
友だちがいないので行きにくい	13.3
特に必要性を感じない	11.3
興味もてない	5.4
車など行く手段がない	2.0
その他	9.9

にして回数を増やす「乳幼児検診の待ち時間の利用と待ち時間の短縮」すでにグループができていたので入りにくい「自由に遊べる場の提供」といった意見であった。障害を持つ子どもの親から「他人からかわいそうという目で見られるのがわかっているから参加しない」といった、障害を持つ子どもの親は参加しにくい状況にあることがわかる。

4. 今後の課題

本調査結果から、子育て支援活動について住民にくわしい内容と正確な情報を知らせることがもっとも大きな課題であると考えられる。ただ書面でいつ・どこで・何をするかを伝えるだけでは不十分である。具体的に今日の活動のテーマは何で、子ども・親は何が学べるかといった目的、内容まで明確化する必要がある。具体的に情報提供をどのような方法で効率よく伝えるかということになる。従来の

方法だけでは不十分であり、さらにケーブテレビやコンピュータの情報機器の活用も一つの方法だと考える。

子育て支援は、必要のないところへ支援をしても意味がない。必要なところへ支援して初めて支援といえるのではないか。しかし、小数の要望は切り捨ててもよいのではなく、きめ細かな対応も必要であろう。現在山県市となってどのように対応しているのか調査することを今後の課題としたい。

参考文献

- 1) 『地域文化研究』第20号 岐阜女子大学 地域文化研究所 2003 「子育て支援活動についての研究 家族構造別にみた子育て状況の問題」木澤光子・三輪聖子
- 2) 「母子保健に関するアンケート」高富町 2000